

(4) 今後の方向性

28

検討シナリオの比較

	投資額	料金改定率 (前半・後半)	企業債残高 (H50時点)	備考
検討シナリオ1	約190億円	—	約31,000円/人	収益収支赤字 資金不足
検討シナリオ2	約170億円	—	約31,000円/人	収益収支赤字 資金不足
検討シナリオ3-1	約170億円	32%・2%	約31,000円/人	
検討シナリオ3-2	約170億円	—	約76,000円/人	収益収支赤字
検討シナリオ3-3A	約170億円	17.5%・2.9%	約57,000円/人	収益収支赤字
検討シナリオ3-3B	約170億円	32%・0%	約34,000円/人	
検討シナリオ3-3C	約170億円	17%・17%	約48,000円/人	

29

今後の方向性

- ✓ 現役世代の負担、次世代の負担の平準化を考えると、**料金改定及び新規企業債の発行による財源確保が不可欠**な状況である。
→料金改定は、次回以降の審議会において、料金体系の見直しも含めたより具体的な検討に入る。
- ✓ 財源確保方策だけでなく、料金改定幅の低減を目指し、**広域化・広域連携、公民連携などによるコスト削減の取組み**は不可欠である。
→広域化・広域連携は、愛知県内の研究会に参加し検討中
- ✓ 新技術の一つである**スマートメーター**について、今後全国の水道事業者で導入が進めば、設置に必要となるイニシャルコストが低減化されるとともに、ランニングコストのコスト削減も想定できる。

30

- ✓ 投資額を抑えるために、やるべき事業をやらないと、
→古い施設や設備、管路が増加して。。。
→耐震性能が低いままで。。。



老朽化した配水管からの漏水
(横浜市水道局HPより)



(写真:大阪広域水道企業団提供資料)

土木学会関西支部報告会

神戸大学鋤田准教授資料より

31